

## コニカミノルタのフィロソフィー

コニカミノルタフィロソフィーは、世界で働く4万人を超えるコニカミノルタグループ社員の礎です。

私たちの存在理由を表す言葉である、経営理念「新しい価値の創造」。

私たちが信条としている、6つのバリュー。

私たちが目指す企業像を示す、経営ビジョン。

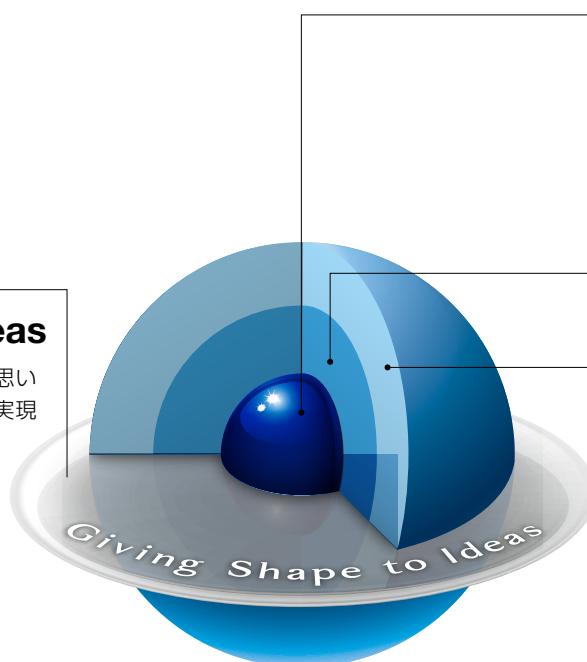
そして、私たちからお客様への約束「Giving Shape to Ideas」。

お客さまと社会に、全力で貢献すること。それが、私たちコニカミノルタの最大の目標です。

### お客さまへの約束

#### **Giving Shape to Ideas**

お客さまをはじめとする社会全体の思いを形にすることで、質の高い社会の実現に貢献します。



### 経営理念 新しい価値の創造

私たちは、コニカミノルタでなければ提供できないイノベーションで、社会に対し「新しい価値」を創造、提供し、その価値を社会と共に共有して質の高い社会の実現を目指します。

### 6つのバリュー

### 経営ビジョン グローバル社会から支持され、必要とされる企業

私たちは、「どのように社会の人々のお役に立てるのか」「どのように質の高い社会を実現できるか」を企業活動における発想の原点として持ち続け、全てのお客さまと社会に満足を超える感動を提供することにより、グローバル社会にとってかけがえのない企業になることを目指します。

### 足腰のしっかりした、進化し続けるイノベーション企業

「足腰のしっかりした」とは、質の高い、逆風にも倒れることのない、強固な経営基盤を持つことを意味しています。その基盤にもとづいて、失敗を恐れず、常に勇気をもって新しい価値を創造し続ける企業になることを目指します。





## 私たちのDNA 「6 Values」

バリューとは、私たちの信条そのものであり、もともと持っているDNAです。

私たちがビジネスを通じて接するすべての人・社会に対する具体的な振る舞いや特徴であり、立ち返るべき判断基準でもあります。

### Open and honest

私たちは、正しいと信じることにこだわり、すべての人・社会とオープンで誠実なコミュニケーションをすることこそ、相互信頼と偽りのない真実に裏付けられた長きにわたるパートナーシップを築くと信じています。

### Customer-centric

私たちは、真にお客さまのために存在します。私たちは、常にお客さまの一歩先を考え、お客さまと一緒に問題解決にあたり、お客さまが本当に必要とされていることを提供する存在として、期待を超える感動を、現在そして将来に届け続けます。

### Innovative

革新こそ私たちの原動力です。私たちの行うあらゆる活動において常に革新的なアイデアを生み出すことこそ、私たちが進化するための源泉だと考えています。

### Passionate

私たちは、情熱、強い意志、そしてあきらめない心を持つことが、お客さまや社会に真に意義ある貢献するために不可欠だと考えています。

### Inclusive and collaborative

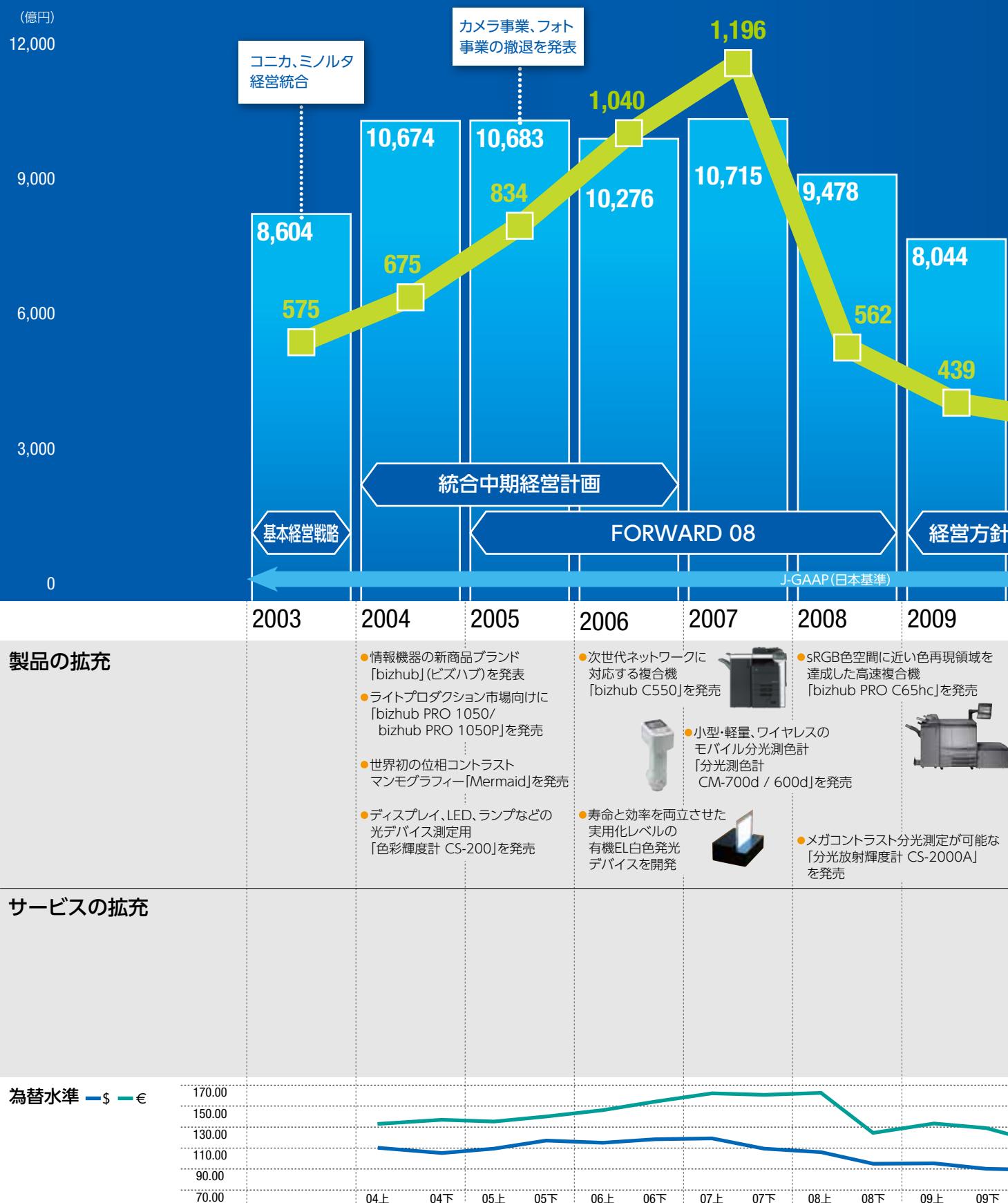
多様性に満ちた人とその発想、そしてお客さま・パートナー・私たちを取り巻く社会とのチームワークは大きなパワーを生み出します。私たちは、そのパワーが今までない発想や最大の価値(ペネフィット)を生み出すためになくてはならないものであると考えています。

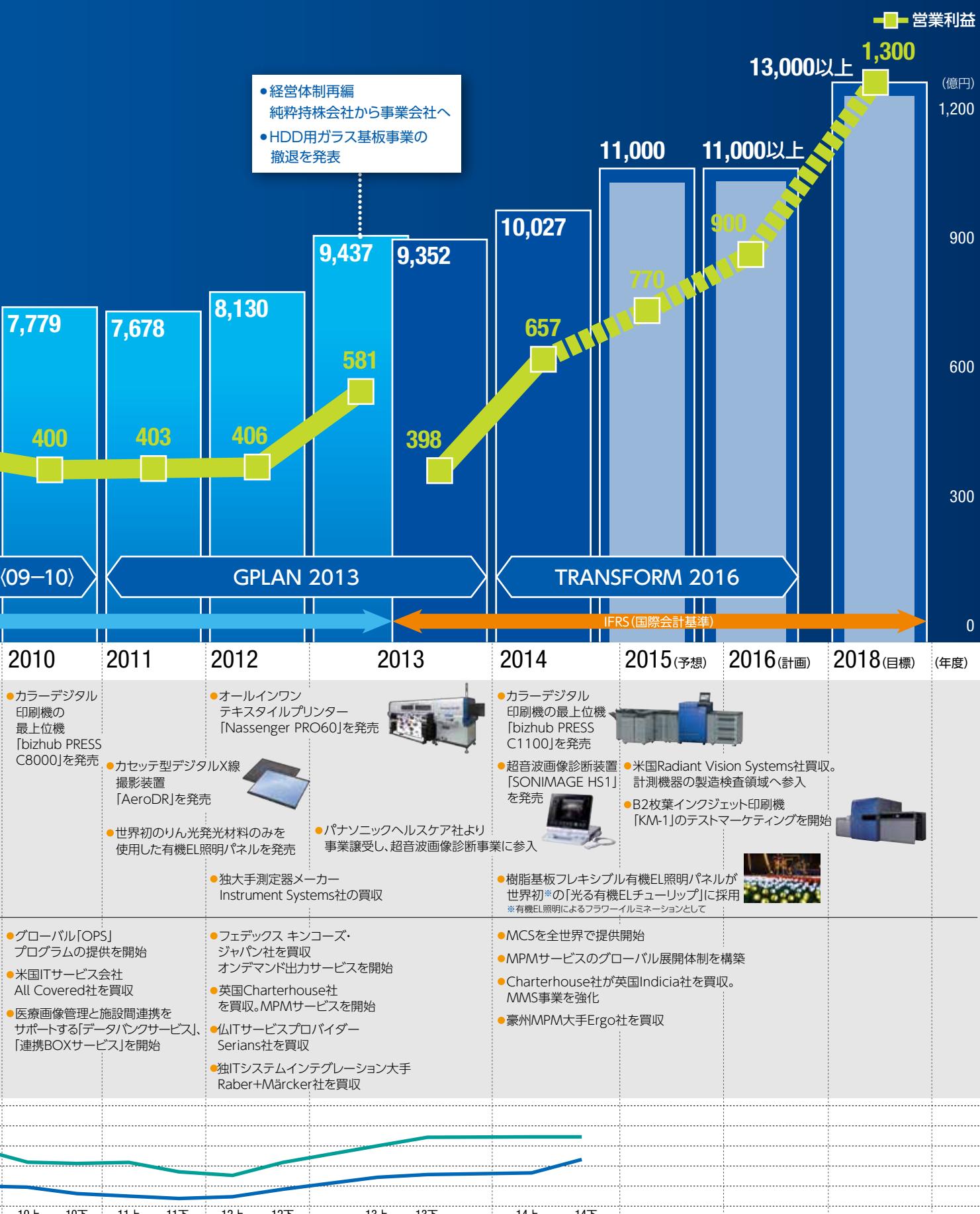
### Accountable

私たちは、すべての企業活動において、グループ社員としてまた企業として、主体的に実行し、やり切り、かつその結果に責任を持ちます。また、それらの行動を通して持続的・社会の実現、コニカミノルタグループの進化に貢献していきます。

## コニカミノルタの歩み

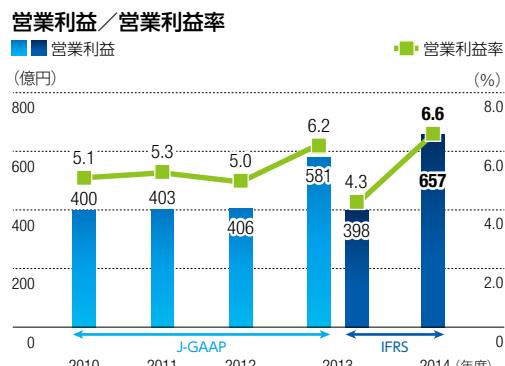
環境変化を常に先読みし、スピードでジャカルトップ戦略を実行することで、持続的な利益成長を目指します。





## 財務・非財務ハイライト

### 収益性

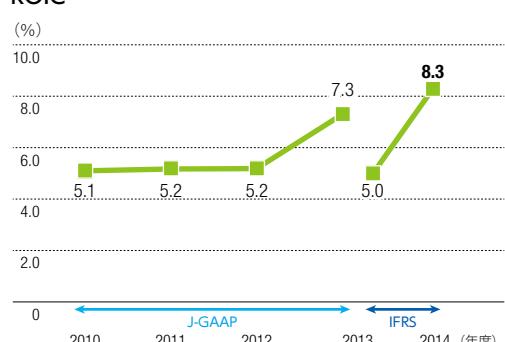


主力の情報機器事業が増収を牽引し、7期ぶりに売上高1兆円を回復しました。また、商業・産業印刷分野の収益改善や産業用材料・機器事業の構造改革効果などにより、大幅な増益となりました。

### 親会社の所有者に帰属する当期利益／ROE\*



### ROIC\*



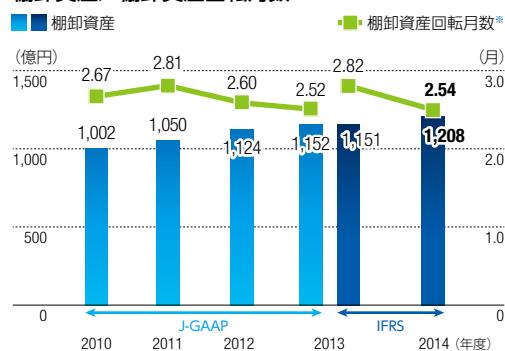
\* ROE (J-GAAP)=当期利益(累計)÷自己資本期首期末平均

ROE(IFRS)=親会社の所有者に帰属する当期利益÷資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式の合計(期首・期末平均)

### 効率性



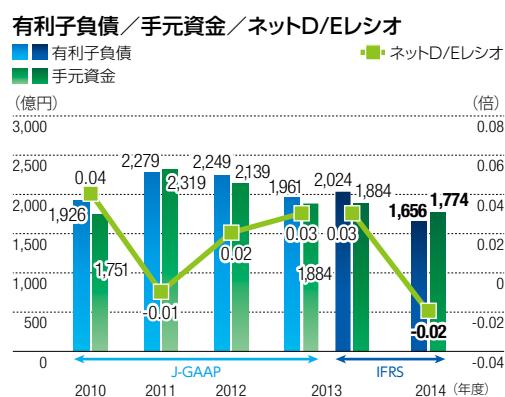
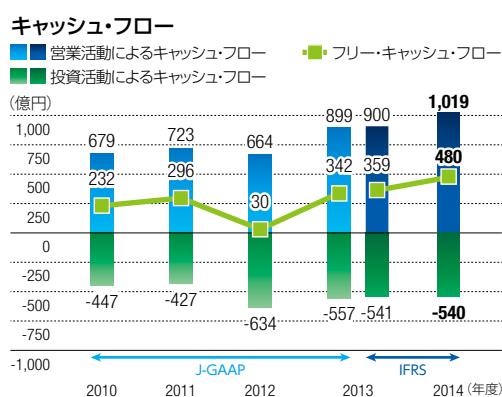
### 棚卸資産／棚卸資産回転月数\*



バランスシートマネジメントの観点から、遊休資産売却、在庫圧縮などによる資産効率の改善に取り組み、2014年度は固定資産売却86億円、保有株式売却32億円を実施しました。棚卸資産回転月数は2.54カ月と在庫適正化にも努めました。

\* 総資産回転率=売上高÷期首期末平均総資産

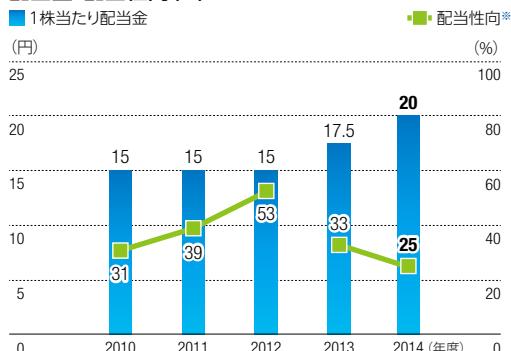
### 健全性



クレジット格付けA格の目標となる「自己資本比率50%以上、ネットD/Eレシオ0レベル」に対して、2014年度は自己資本比率53.1%、ネットD/Eレシオ▲0.02となり、債務格付けはR&I→A、JCR→A+を維持しました。

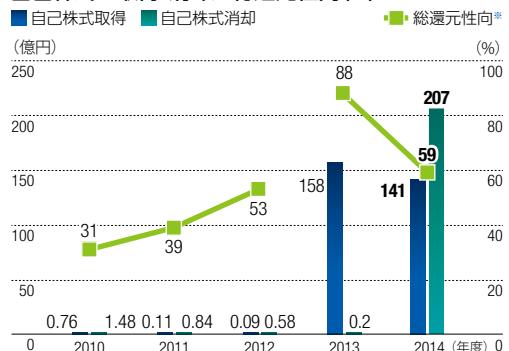
## 株主還元

配当金/配当性向(%)\*



※ 2010~2012年度はJ-GAAP、2013~2014年度はIFRS

自己株式の取得・消却／総還元性向(%)\*



連結業績や成長分野への戦略投資の推進などを総合的に勘案しつつ、株主還元することを基本とし、2014年度は、年間配当20円、自己株式取得141億円を実施いたしました。

## 投資指標

EPS\*



※ EPS=親会社の所有者に帰属する当期利益÷期中平均株式数

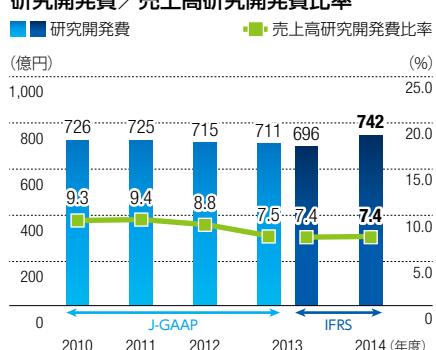
PBR\*



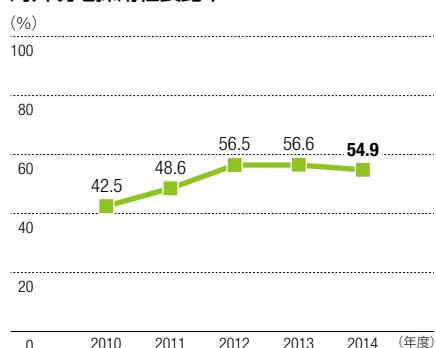
資産売却等による特別損益の大幅な改善などにより、2014年度の1株当たり当期利益(EPS)は81.01円となりました。株価資産倍率(PBR)は0.86にとどまっています。

## 非財務情報

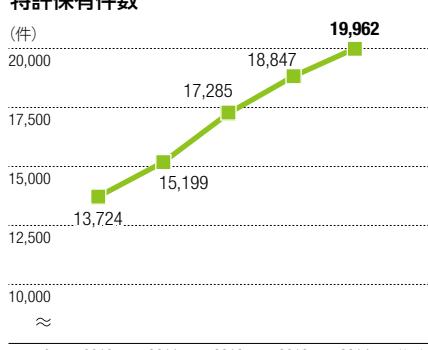
研究開発費／売上高研究開発費比率



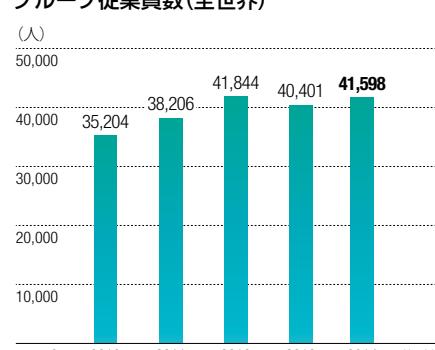
海外現地採用社長比率



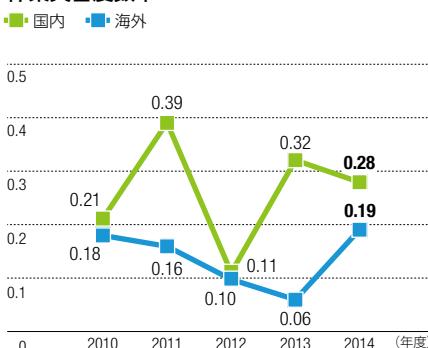
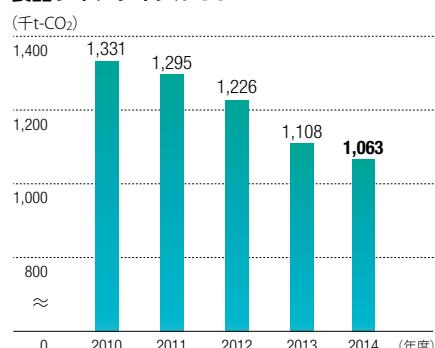
特許保有件数



グループ従業員数(全世界)



休業災害度数率

製品ライフサイクルCO<sub>2</sub>

## 事業概要

世界でジャンルトップを獲得する情報機器事業を中心に、  
変革を続けるイノベーションカンパニーです。

事業別売上高構成比 (2015年3月期)

### 産業用材料・機器事業

**11.2%** (1,127億円)

機能材料分野

**6.1%**  
(609億円)

産業用光学システム分野

**5.2%**  
(518億円)

**商業・産業印刷分野**  
**21.1%**  
(2,111億円)

**オフィスサービス分野**  
**59.5%**  
(5,970億円)

### ヘルスケア事業

**7.8%**  
(785億円)

### 情報機器事業

**80.6%**  
(8,082億円)

#### 情報機器事業

##### オフィスサービス分野

A3カラー複合機で  
海外トップクラスのシェア

※CY2014の外部データをもとに当社推定、台数ベース



##### 商業・産業印刷分野

カラーデジタル印刷システムで世界トップクラスのシェア

※CY2014の外部データをもとに当社推定、台数ベース

bizhub PRESS C1100



#### ヘルスケア事業

##### ヘルスケア分野

無線カセッテ型DR国内市場でトップクラスのシェア

※CY2014の外部データをもとに当社推定



AeroDR PREMIUM

#### 産業用材料・機器事業

##### 産業用光学システム分野

ディスプレイアナライザー  
でトップクラスのシェア

※CY2014 当社推定

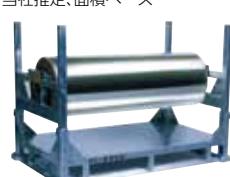


ディスプレイカラー  
アナライザー CA-310

##### 機能材料分野

視野角拡大用  
VA-TACフィルムで  
世界トップクラスのシェア

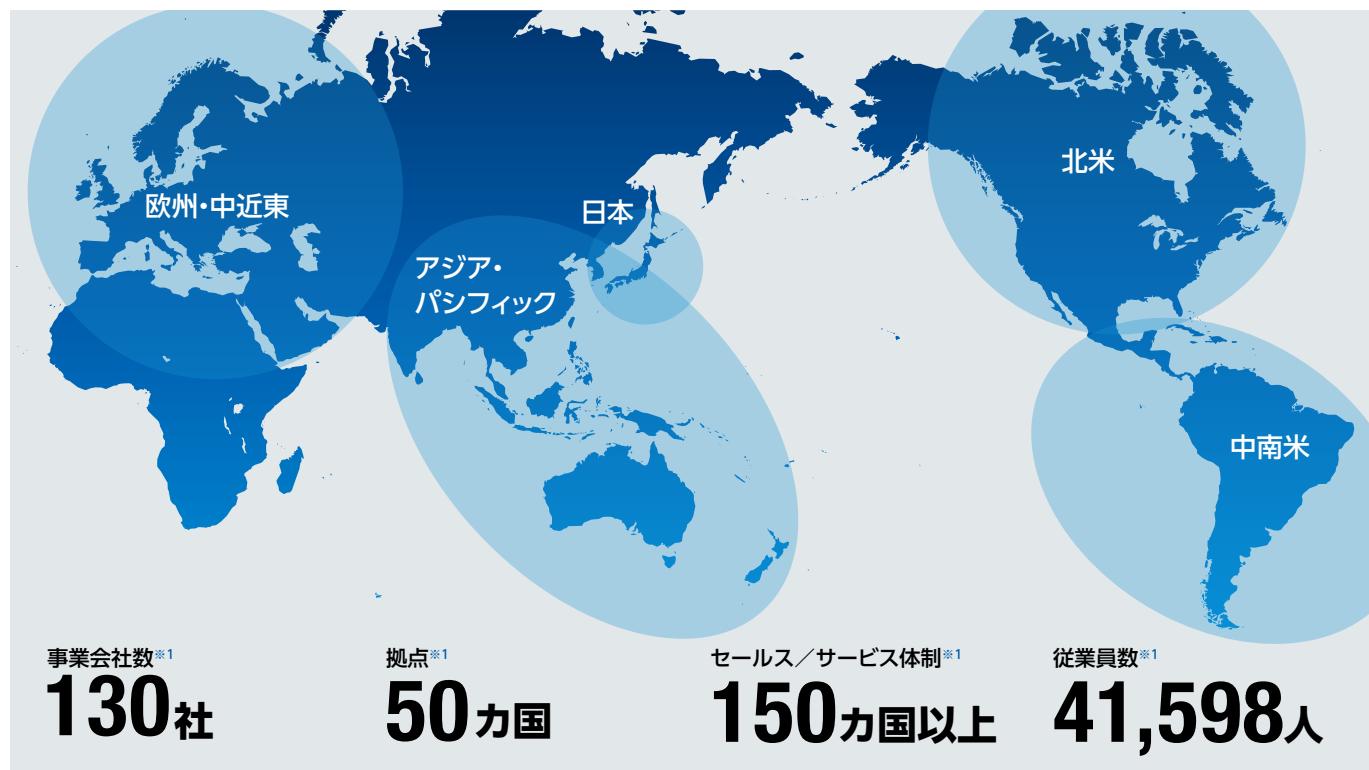
※CY2014の外部データをもとに  
当社推定、面積ベース



液晶偏光板用TACフィルム

## 地域別概要

世界50カ国 の拠点と、従業員数4万人超を抱え、社会ニーズに応えるグローバルカンパニーです。



	売上高※2 (億円)	従業員数 (人)	事業会社数 (社)	CO <sub>2</sub> 排出量 (千t-CO <sub>2</sub> )	エネルギー投入量 (TJ)	水使用量 (千m <sup>3</sup> )
欧州	2012	2,248	8,151	56	32	660
	2013	3,096	8,328	55	31	619
	2014	<b>3,286</b>	<b>9,048</b>	<b>61</b>	<b>28</b>	<b>545</b>
北米	2012	1,657	7,706	9	41	681
	2013	2,058	7,663	11	38	635
	2014	<b>2,356</b>	<b>8,046</b>	<b>9</b>	<b>36</b>	<b>599</b>
日本	2012	2,262	12,539	27	286	6,147
	2013	2,047	12,177	21	262	5,626
	2014	<b>1,946</b>	<b>12,154</b>	<b>20</b>	<b>265</b>	<b>5,694</b>
アジア・ その他	2012	1,962	13,448	21	114	1,616
	2013	2,149	12,233	23	91	1,238
	2014	<b>2,438</b>	<b>12,350</b>	<b>40</b>	<b>70</b>	<b>912</b>

※2 会計基準を2012年度は日本基準、2013・2014年度はIFRS(国際会計基準)としています。

また、ロシアおよびトルコの売上高を2012年度はアジア・その他に、2013・2014年度は欧州に組み入れています。